

平成20年8月28日公表

平成20年産水稻の作柄概況（宮崎県） （8月15日現在）



— 早期栽培の10aあたり収量は505kgが見込まれ、普通栽培の生育はやや良 —

I 調査結果の概要

- 1 早期栽培は、登熟期が天候に恵まれたことや台風の影響もなかったことから登熟（実入り）が良となり、10aあたり収量は505kgが見込まれます。
- 2 普通栽培は、梅雨明け後の気温、日照時間が平年を上回ったことにより、茎数が平年に比べてやや多くなっていることから、生育は「やや良」となっています。



早期水稻（7月下旬宮崎市）

水稻の作柄表示地帯

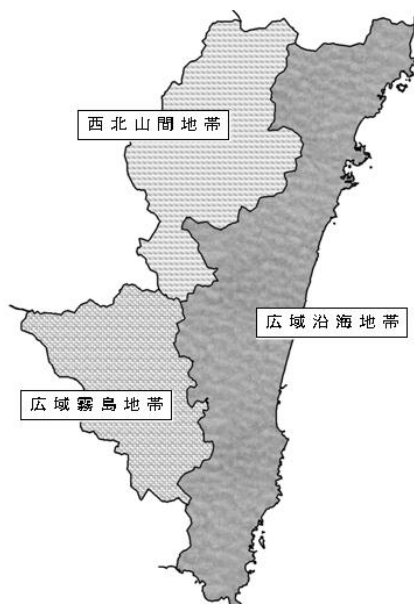


表1 早期栽培の10aあたり（予想）収量

区分	10aあたり （予想）収量 ①	10aあたり 平年収量 ②	（参考）		
			予想収穫量 ③=①×④	1)作付面積 （子実用、見込み） ④	作況 指数 ⑤=①/②
県平均	505 kg	475 kg	44 400 t	8 800 ha	106
うち 広域沿海	505	475	…	…	106

注：1)の作付面積（子実用、見込み）については、関係機関等からの情報収集により把握した現時点での見込みの面積（参考値）であり、今後変わる可能性があります。

この統計調査結果は、九州農政局ホームページの中の「宮崎農政事務所」のコーナーに掲載しています。

<http://www.maff.go.jp/kyusyu/miyazaki/index.html>

Ⅱ 解 説

1 早期栽培

初期生育は、3月下旬から4月の低温と強風の影響により葉先の黄化がみられ、5月中旬の気温及び日照時間が平年を下回って経過したことから、分けつが抑制されました。

出穂期は、初期生育の遅れと6月の気温・日照時間が平年を下回ったことから、平年に比べて5日遅く、前年に比べて2日遅い6月29日となりました。

穂数は、初期生育で分けつが抑制されたことから、平年に比べてやや少なくなりました。

全もみ数は、穂数がやや少ないものの、1穂当たりもみ数がやや多かったことから、平年並みとなりました。

登熟（実入り）は、7月上旬の梅雨明けからの天候が好天に恵まれたことから、粒肥大・粒充実はともに良くなりました。登熟を高めた要因は、高温・多照で気温日較差も大きく、適度な降雨があったためと推測されます。

刈取最盛期は、出穂期が遅れていたものの、登熟期の天候が好天に恵まれたことから平年に比べて1日遅く、前年に比べて1日早い7月31日となりました。

被害は、気象被害及び病害・虫害は平年に比べて少なくなりました。

気象被害は、一部地域で6月～7月の降雨による倒伏がみられたものの、台風被害がなかったことから少なくなりました。

病害は、一部地域でいもち病、紋枯病が発生し、虫害は一部地域でスクミリンゴガイによる食害やカメムシによる斑点米がみられました。

以上のことから、10a当たり収量は505kgが見込まれます。

表2 早期栽培の作柄概況

区 分	刈 取 期					穂数の多少 (平年比較)	一穂当たりの多少	全もみ数の多少	登熟の良否	被害の多少	刈取済面積割合 %	対平年差 ポイント
	始 期	最盛期	終 期	最盛期の比較								
				対平年	対前年							
県平均	7.26	7.31	8.7	1日遅	1日早	やや少ない	やや多い	平年並み	良	少ない	99	△1
うち 広域沿海	7.26	7.31	8.7	1日遅	1日早	やや少ない	やや多い	平年並み	良	少ない	99	△1

注：地帯別の作柄概況については作付面積1,000ha以上の主要地帯を掲載しています。

2 普通栽培

田植期は、5月下旬からの降雨により用水が確保されたものの、登熟期の高温による乳白米等の発生を避けるため田植え時期を遅らせる指導がなされていることから、平年に比べて4日遅く、前年並みの6月15日となりました。

生育は、田植後の日照時間は平年を下回ったものの、7月上旬以降の高温・多照により分けつが旺盛となり茎数は平年に比べてやや多く、草丈は平年並みとなっています。

被害は、総じてやや少なくなっています。

気象被害は、7月下旬の山間部での激しい雨により、一部地域に土砂流入、埋没、冠水等の被害がみられました。

病害は、葉もち病や紋枯病の発生がみられます。

虫害は、コブノメイガ、ウンカの発生がみられます。

以上のことから、生育は「やや良」となっています。

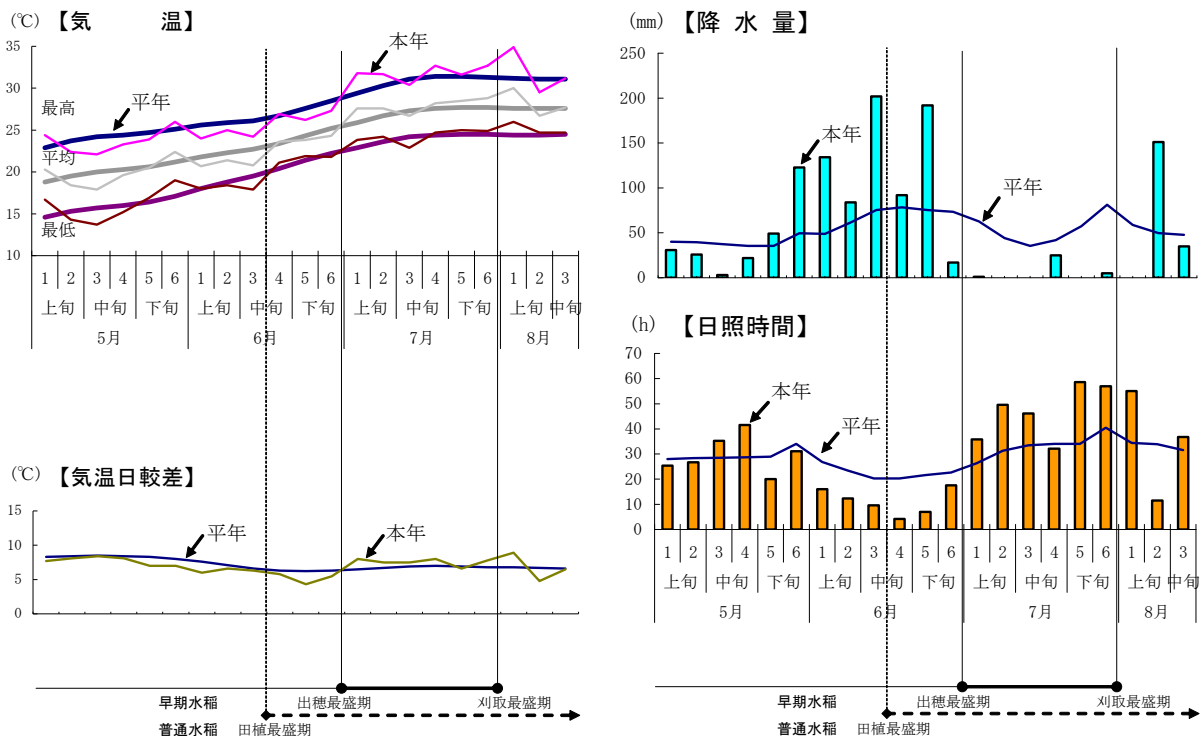
表3 普通栽培の生育状況

区分	田植期					生育の良否 (平年比較)	草丈の長短 (平年比較)	茎数の多少 (平年比較)	出穂済面積割合 %	対平年差 ポイント
	始期	最盛期	終期	最盛期の比較						
				対平年	対前年					
県平均	5.30	6.15	6.26	4日遅	並み	やや良	平年並み	やや多い	3	△1
広域沿海	5.21	6.16	7.1	4日遅	2日遅	やや良	やや短い	多い	4	△1
広域霧島	6.5	6.17	6.26	5日遅	1日遅	やや良	平年並み	やや多い	2	0
西北山間	5.16	6.5	6.16	並み	5日早	やや良	やや長い	多い	5	△11

注：生育状況は、草丈の長短、茎数の多少等の計測結果や生育の遅速、被害の発生状況等を総合して、8月15日現在における稲体の生育状態を調査したもので、作柄を予測したものではありません。

【参考】

平成20年半旬別気象図（宮崎市）



資料：「気象庁アメダスデータ」

調査の仕様

- 1 調査方法は、作況標本筆、基準筆及び被害調査筆に対する職員による実測調査及び巡回調査により取りまとめました。
 - 2 田植期及び刈取期については、始期は面積割合が5%、最盛期は同50%、終期は同95%にそれぞれ達した期日です。
 - 3 用語等の解説
 - (1) 「最盛期の比較」欄の「対平年」は前5カ年の平均値との比較です。
 - (2) 「穂数の多少」は、1㎡当たりに出穂したすべての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
 - (3) 「1穂当たりもみ数の多少」は、1穂平均についているすべての粒の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
 - (4) 「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりのすべてのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
 - (5) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの稔実・肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表しています。
 - (6) 上記(2)～(5)に用いた表示区分は、「多い」「良」が106%以上、「やや多い」「やや良」が102～105%、「平年並み」が99～101%、「やや少ない」「やや不良」が95～98%、「少ない」「不良」が94%以下です。
 - (7) 刈取済面積割合及び出穂済面積割合欄の「△」は平年より少ないことを示しています。
 - (8) 作況指数とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり(予想)収量の比率です。
 - 4 作柄表示地帯区分

広域沿海…串間市、日南市、宮崎市、西都市、日向市、延岡市、南那珂郡、宮崎郡、東諸県郡、児湯郡（西米良村を除く）、東臼杵郡（美郷町・諸塚村・椎葉村を除く）

広域霧島…都城市、小林市、えびの市、北諸県郡、西諸県郡

西北山間…西臼杵郡、美郷町、諸塚村、椎葉村、西米良村
- 次回の水稻作柄概況の発表は、9月下旬を予定しています。

◎本統計調査結果について

連絡先：九州農政局宮崎農政事務所統計部
生産流通消費統計課
TEL：(直通) 0985 (24) 2373
FAX：0985 (29) 8442

◎農林水産統計全般について

連絡先：九州農政局宮崎農政事務所統計部
統計企画課
TEL：(直通) 0985 (24) 2365
FAX：0985 (29) 8442